

A decorative border of pink, five-petaled flowers with white centers, arranged in a rectangular frame around the text.

2018年6月10日発行

新薬と臨牀 第67巻 6号に

泌尿器科 林 知行 先生の

論文が掲載されましたので

お知らせ致します。

新薬と臨床

2018 June

6

第 67 卷 No.6

原 著

—基礎・診療の基礎—

糖, 電解質, アミノ酸, ビタミンおよび微量元素を配合した
新規中心静脈栄養輸液製剤 AYP301 の消化器術後患者を
対象とした多施設共同比較臨床試験 (第Ⅲ相試験) ……………大阪大学 井上 善文・ 3(627)

—診療の実際から—

2 型糖尿病患者に対する DPP-4 阻害薬リナグリプチン
(トラゼンタ[®]錠5mg) 長期投与時の
安全性および有効性 ……………日本ベーリンガーインゲルハイム(株) 海野 由里子・ 43(667)

プロトンポンプ阻害薬内服中の透析患者における
炭酸ランタンからスクロオキシ水酸化鉄への
内服変更時のリン吸着効果の検討 ……………西の京病院 林 知行・ 66(690)

急性血液浄化療法施行時の非カフ型カテーテルから
カフ型カテーテルへの移行について ……………相模原協同病院 柴原 宏・ 72(696)

—検査・診断用機器—

健診・人間ドックでの Small Dense LDL Cholesterol 値の
活用と基準値の検討 ……………アクティ健診センター 今岡 渉・ 82(706)

メディカルスクウェア

透析期 CKD における二次性副甲状腺機能亢進症に対する
薬物療法～カルシウム受容体作動薬を中心に～ ……………昭和大学藤が丘病院 小岩 文彦・ 94(718)
薬剤の使用過多による頭痛 (薬物乱用頭痛) ……………富士通クリニック 五十嵐 久佳・ 101(725)

指定難病最前線

マリネスコ-シェーグレン症候群の原因と症状 ……………東京医科大学 林 由起子・ 110(734)
クローンカイト・カナダ症候群の診断と治療 ……………防衛医科大学校 渡辺 知佳子・ 114(738)
先天性グリコシルホスファチジルイノシトール
(GPI) 欠損症の特徴と臨床症状への対処法 ……………大阪大学微生物病研究所 村上 良子・ 119(743)

提供記事 第14回 日本消化管学会総会学術集会 ランチョンセミナー

特殊型 IBD における最適治療を考える
～GMA の役割は～ ……………順天堂大学医学部附属浦安病院 長田 太郎・ 125(749)

▶ *Medical News in Brief* …………… 132(756)
▶ 新薬開発一覧 …………… 134(758)

原 著

プロトンポンプ阻害薬内服中の透析患者における 炭酸ランタンからスクロオキシ水酸化鉄への 内服変更時のリン吸着効果の検討

医療法人康仁会 西の京病院

林 知行¹・赤 澤 愛²・武 井 誠²
富 田 佳 世³・西 岡 志 真³・山 添 雅 之³
二 神 徳 明⁴・野 口 幸⁴・渡 邊 美 智 子⁵
吉 岡 伸 夫²・高 比 康 臣²

要 旨

プロトンポンプ阻害薬 (PPI) を内服している透析患者に対して、金属塩型リン吸着薬である炭酸ランタンから高分子型リン吸着薬であるスクロオキシ水酸化鉄への内服変更を行うことで、金属塩型リン吸着薬のリン吸着効果に対するPPI内服の影響を検討した。

対象は当院外来通院中の炭酸ランタンとPPIを内服している維持透析患者23名とした。内服している炭酸ランタンをスクロオキシ水酸化鉄に変更し、変更前後の血清リン値やリン吸着薬投与量を検討した。

観察期間中3名に副作用が発生し、3名ともスクロオキシ水酸化鉄の内服を中止し対象から除外した。最終的な観察対象となった20名の血清リン値は、変更前の 5.9 ± 1.1 mg/dLから 4.8 ± 0.8 mg/dLへ有意に ($p=0.005$) 低下した。変更前の炭酸ランタンの平均投与量は 1338 ± 592 mg/dayで観察期間終了時のスクロオキシ水酸化鉄の平均投与量は 888 ± 319 mg/dayであった。

1: 泌尿器科 2: 内科 3: 薬剤部 4: 臨床工学科 5: 透析センター

責任著者連絡先: 医療法人康仁会 西の京病院 泌尿器科 林 知行

〒630-8041 奈良市六条町102-1

Tel 0742-35-1121

キーワード: 高リン血症, スクロオキシ水酸化鉄, 炭酸ランタン, プロトンポンプ阻害薬

既報では炭酸ランタンとスクロオキシ水酸化鉄の投与量当たりのリン吸着効果比はほぼ同等であることから、対象をPPI内服患者に限定することで炭酸ランタンのリン吸着効果が減弱することが推察された。PPI内服中の透析患者の高リン血症の治療においてはpHの影響を受けにくい高分子型リン吸着薬が有効であると示唆された。

**Clinical Study the Change of the Phosphorus Binder
from Lanthanum Carbonate to Sucroferric Oxyhydroxide
in Hemodialysis Patients Taking Proton Pump Inhibitor**

Tomoyuki Hayashi¹, Ai Akazawa², Makoto Takei², Kayo Tomita³, Shima Nishioka³,
Masayuki Yamazoe³, Noriaki Futagami⁴, Miyuki Noguchi⁴, Michiko Watanabe⁵,
Nobuo Yoshioka² and Yasuomi Takahi²

1 : *Department of Urology, Nishinokyo Hospital*

2 : *Department of Internal Medicine, Nishinokyo Hospital*

3 : *Department of Pharmacy, Nishinokyo Hospital*

4 : *Department of Clinical Engineering, Nishinokyo Hospital*

5 : *Dialysis Center, Nishinokyo Hospital*

Corresponding author : Tomoyuki Hayashi
Department of Urology, Nishinokyo Hospital
102-1 Rokujo-Cho, Nara 630-8041, Japan
Tel +81-742-35-1121